

勿凝学問 321

相手は野党だ、その喧嘩の仕方はいただけないねえ、プライムミニスター

2010 年 7 月 5 日

慶應義塾大学 商学部

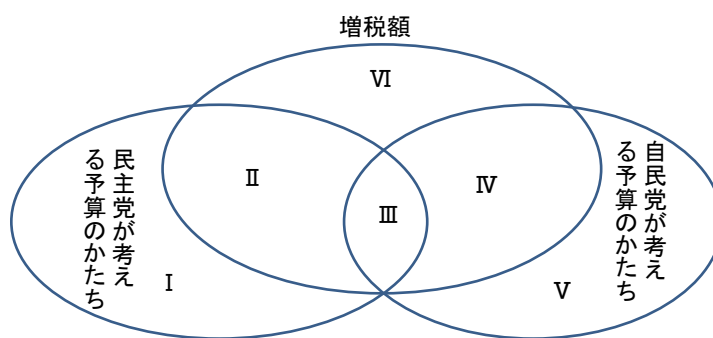
教授 権丈善一

今朝も暇だったので、新報道 2001 をみていたら、党首討論が行われていた。そこで谷垣さんが、菅さんに、民主党のマニフェストの中のバラマキ政策を指摘。「消費税は、菅さんの下では、20%は下らないと思うんですね」と言って、こういう状況では、与野党協議にのるわけにはいかない姿勢を示す。これを受けて、菅さんは、「谷垣さんには、自分のマニフェストも読んでいただきたい」と言う。

この菅さんの対応は、喧嘩の仕方としてはうまくないね。相手は野党だよ。

「勿凝学問 316 [野党に助けてもらうんだから与党も譲ってあげないとね](#)」の中の次の図と、この図に関する説明をみてもらいたい。

財政健全化検討会議・社会保障円卓会議の議題



I は、民主党がすでに予算に組み込んでいて、来年度以降も継続するつもりでいる施策であり、II と III は、民主党が、今後増税で財源を調達することにより行いたいと考えている施策を意味する。この時、

Ⅲの、民主と自民の双方が、増税で賄いたいと考えている施策には、たとえば、高齢者三経費のスキマ分の埋め合わせや医療・介護の機能強化、保育諸整備なども含まれることになる。そして、ⅠやⅡに関して典型的な例をあげておけば、Ⅰには現在半額支給の子ども手当、部分的に施行された農家への戸別所得補償制度があり、Ⅱには高速道路無料化、子ども手当、戸別所得補償制度の全面施行、それに基礎年金の租税財源化などを挙げることができる。

さてこの条件の下で、仮に、与党である民主党が、Ⅲに属する高齢者三経費や医療介護保育政策の機能強化を行うための消費税引き上げに協力してくれと自民党に言ったとする。この時、ⅠやⅡに属する政策に反対している自民党は、どう考えても割が合わない。それに、Ⅲの総額は、ⅠやⅡの総額と独立ではなく、Ⅰ、Ⅱが縮小されればⅢは増えるという関係にある。ところが、有権者が嫌がることを議論するために野党が超党派の検討会に参加するということは、明らかに与党側にとってこそ都合のいい話なのである。もっと直接的に言えば、増税を検討する超党派の会議に野党が参加するということは、野党にとっては敵に塩を送ること、要するに野党が与党に票をあげることを意味する。となれば、普通に考えたら、本稿のタイトルである、「野党に助けてもらうんだから与党も譲ってあげないとね」ということになる。要するに、Ⅰ、Ⅱの領域で民主党は自民党に譲歩しなければ、与野党の交渉はあまりにもバランスを欠くのである。

ここで、僕は、先のベン図の中のⅣやⅤ（自民党固有の政策）について論じていないのは、自民党は野党だから、議論する必要がないからである。野党のマニフェストに書いてあることには、なんら財源が必要ない。野党が超党派の検討会に参加するかどうかを決める瀬戸際で大切なことは、与党のⅠとⅡ、谷垣さんの言うバラマキを与党はどう見直すかでしかないんだよな。谷垣さんがⅣやⅤを実行してくれないと超党派の検討会に参加しなと言わない限り、その問題には触れる必要はないのである。それなのに、せっかく谷垣さんが「問題は財政を破綻させちゃいかんということで、菅さんの仰るとおりだと思うんですね」と言ってくれているのに、「自分のマニフェストもご覧になっていただきたい」はいいな——しかも、そういう切り返しをするための準備をしていたようでもある。そんなことやっていたんじゃ（もしくは、そういうアドバイスをする程度の人物をつかっていたんじゃ）、自民党に、ババ抜きのパパと一緒に引いてもらえないまま、この国は終わるな。

それにしても、参院選を前に、テレビではディベート企画が盛んだけど、ディベートっ

てのは、教育上、あんまりよくないな。ゼミでは月に一回やっているけど、テレビをみていると、ディベートってのはウソつきの特訓のようなもんだね。

ディベートついでに次でもどうぞ。

勿凝学問 67 [映画「サンキュー・スモーキング」のすゝめ——天高く空に舞い日本中に知れ渡れパート厚年適用制度](#)